



# みをつくし

静岡県立浜松みをつくし特別支援学校  
学校だよりNo.3  
令和8年2月 日 発行

本校の校章のモチーフとなった「みをつくし」は、約1,200～1,300年前の「万葉集」に登場しています。しかも、万葉集には「遠江引佐細江の漣標吾を頼めてあさましものを」とあり、ここには、まさに細江という語が読み込まれています。和歌の意味はさておき、「みをつくし」が、古来から湖の航路を示すものとして湖上に設置され、航路を示すのと同時に、河口から川の側が浅瀬になる（船が座礁する）ことを船人に示すことで、人々の安全をも守っていたと考えられます。「みをつくし」は、長い細江の歴史の中で、人々にとってなくてはならない「道標（みちしるべ）」であったことは間違いありません。その後、「みをつくし」は長く地域に定着し、昭和30年代初頭、旧細江町の町章のデザインに採用されました。しかし、細江町は平成に入り浜松市と合併、今、細江町章が地域の皆様の中でどのように移ろっているのかと思いをはせているところです。



副校長 礒部幸宏

しかし、令和3年4月、「みをつくし」が意外な形で地域の皆さんの前に姿を現したのではないのでしょうか。県立浜松みをつくし特別支援学校が開校した折、校章に「みをつくし」が採用されたのです。さらに、新たに加えられた新芽の絵が子どもたちの成長を、左右に広がるリボンは子どもたちの未来を、背景のひし形の「菱」は生命が太陽の光を浴びて成長繁茂する様子を表しています。「みをつくし」がさらに力を与えられ、本校の校章となったことに、地域との強い縁の深さを感じざるを得ません。また、本校が「みをつくし」を未来につなげていく役割を担えたことはたいへん光栄なことです。

一方、この校章の重みを具体化していくのは、私たち教職員です。本校の教育目標は「共に学び 共に育ち 共に夢をつかむ」です。児童生徒はもちろん、教職員や学校、保護者・家族と地域、関係機関と一緒に夢を見て成長していく学校を目指しています。皆で大きな船で「夢」という針路に向かって進んでいく「みをつくし丸」。開校5年目を迎え、歴史と地域と新しい力を融合した本校に対し、地域の皆様から大きな力を与えてくださるよう、お願いしたい所存です。

## みをつくしサポーター大活躍！！

今年度、地域の学習ボランティア（みをつくしサポーター）の皆様には、様々な教育活動に御協力いただきました。ありがとうございました。



今後も、多くの地域の皆様に御協力いただくことで子どもたちが地域と共に学び、地域と共に育つことができたらと考えておりますので、みをつくしサポーターにご興味のある方はお気軽に学校にお問い合わせくださるか、こちらのQRコードから登録してください。

実際の教育活動の様子は、裏面をご覧ください。

担当 地域連携課 伊藤 TEL053-424-5891



## 《本校の地域と関わる学習》 地域資源を活用した学習

<p>小学部</p>	<p>1年生は、自分たちでさつまいもを育てました。12月にはみをつくしサポーターの方がさつまいもを使って、おいしいスイートポテトを作ってくださいました。ホイップクリームをのせて、おいしくいただきました。</p> <p>4年生は、7月に野菜の栽培をしたときにお世話になったみをつくしサポーターの方々を、クリスマスパーティーに招待しました。児童の企画したクイズや歌、ゲームを一緒に行い、楽しいひと時を過ごしました。</p>	
<p>中学部</p>	<p>11月26日に、本校の1・2年生と細江中の2年生で交流を行いました。ダンスでは、本校の生徒が、舞台上で手本として踊る経験をさせてもらい、自信をつけることができました。歌唱では、両校の生徒全員で合唱をしました。共に活動をする中で、頑張りを認め合うことができました。交流後に「歌が上手だったよ。」「また、学校に来てくださいね。」という手紙が届きました。来年度も、両校にとって有意義な交流をしたいと思います。</p>	 <p>(上) ダンス (下) 歌唱</p>
<p>高等部</p>	<p>11月21日に浜松湖北高校産業マネジメント科3年生19名とみかんの収穫の交流活動を行いました。みかん畑では、はさみの使い方や収穫のコツを教わりながら活動する中で、「このみかんがいいよ。」「上手だね。」などの声が聞かれ、協力しながら学ぶ姿が見られました。また、色づきの良いみかんを選び、大切に扱う様子が印象的でした。更に、みかんの試食や農業クイズを通して交流を深めました。体験を通して、作物を育て収穫する大変さや喜びを学ぶとともに、人と関わりながら取り組むことの大切さを実感する機会となりました。</p>	  <p>検索 <input type="text"/></p>

